

## 遠野市環境基本計画に基づいた 現状課題への対応について



多田 勉 議員  
(清風会)

**問**

市では厳しい環境状況の認識のもとに、第2次環境基本計画を策定したと思われるが、河川環境の変化や悪化に対する環境基本計画との関係強化と、計画に則った河川の環境づくりや保護、保全についてどのように考えているか。

**答**

今回の計画は、「ふるさと遠野の環境を守り育てる基本条例」の理念に基づいたものであり、計画期間は23年度から27年度までの5年間である。森林荒廃による水源涵養機能の低下や水質の悪化、さらには水棲生物の生息環境の悪化が指摘されるなど、水資源を取り巻く状況も大きく変わりつつある。平成22年度には、猿ヶ石川の上・下流域基本計画の一本化に併せて「花巻遠野流域協議会」が発足した。本市主要河川の猿ヶ石川とその支流の水質は良好であるが、現在、整備された河川では真砂土が流れてきて溜まり、魚

**問**

川上から川下に至る環境を考慮した取り組みとして、産業の振興と病害虫対策を推進しながら水源涵養や、治山機能の充実と安定を図り、地域特性を活かした循環型林業を確立するなど、総合的環境政策に着手すべきと思うが。

が棲めなくなっている状況にある。県では、生物の生息環境や水質保全を考慮した河川整備に取り組んでいる。山林から流れ出る濁流が河川に流れ込むなど、災害につながる危険性があるため、砂防ダムが有効手段として整備されてきたが、その役割を果たさず、堆積した土砂が一気に流れ出すなど、むしろ災害を引き起こす事例が発生しつつある。国、県が管理する河川の情報の共有化を図ると共に、猿ヶ石川水系の水質改善に取り組み、鮭など多様な魚類が回帰する良好な河川環境の創出・促進に努める。

**答**

森林は多くの環境保全機能を有しており、循環型社会の構築等、市民生活に大きく寄与している。国は森林再生プランを打ち出した。これからは森林、林業が環境とあいまって取

り組み、森林を産業振興の循環型の仕組みをつくらなければならない。循環型産業を推進する組織として、市の林業振興室を見直すことも急がなければならない課題だと思っている。



台風12号によって増水した猿ヶ石川(下鱒沢・沢田橋)